



hito*yume
インタビュー

武豊

巻頭特集

デビュー以来、数々の輝かしい記録を打ち立て、
2009年12月には通算勝利記録を3300勝に更新。
40歳を超えたいまも、その自らの記録を塗り替えるという
前人未到の領域に挑み続けている騎手、武豊さん。
そんな武豊さんを突き動かしているものは、
デビュー以来変わらない、
「いい騎手になりたい」というシンプルな思いだけ。
いい騎手とは何か？そこには、「学びとは何か」に通じる、
武さんなりの答えがありました。

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

そりゃ大変じゃ!



情報セキュリティ対策は、
個人情報扱う団体では
必須の重要事項です。



中小規模企業向け PC 統合セキュリティシステム

PC運用上手

情報漏えい対策と
PCの資産・運用管理をこの1台で!

「PC運用上手」は、情報漏えい対策に必要なセキュリティ機能をまとめて搭載。兵庫県・T町では町内10校に「PC運用上手」を導入。北海道・K市では17校に、長野県では県立校19校に導入されるなど、広域での同時導入が進んでいます。

詳しくは

- ▶ Active Directory構築
- ▶ ID管理、AD連動
- ▶ 操作監視、操作制御
- ▶ ソフトウェア配付
- ▶ 検疫ネットワーク
- ▶ 不正PC検出・排除
- ▶ 解析・通知
- ▶ PCデータバックアップ
- ▶ 資産管理
- ▶ システム管理



信頼性に優れた
インテル® Xeon®
プロセッサ X3330 搭載

※全ての機能をご利用いただくには、PC 運用上手のほか「ウイルス対策ソフト」、「暗号化ソフト」が必要になります。
●「PC運用上手」は、株式会社東芝の登録商標です。●Intel、インテル、Intel logo、Intel Inside、Intel Inside logo、Centrino、Centrino Inside、Intel vPro、Intel vPro logo、Celeron、Celeron Inside、Intel Core、Core Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporationの商標です。●Microsoft、Windows、Windows Server、Active Directory、Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。●本資料に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標として使用しているものがあります。●資料の内容はお断りなしに変更することがあります。

株式会社 **東芝**
デジタルプロダクツ&ネットワーク社 IPネットワーク・ソリューション事業部
〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1
Email: pcman@ieg.toshiba.co.jp

東芝情報機器株式会社
プラットフォーム・ソリューション本部
〒135-8505 東京都江東区豊洲5-6-15 (NBF豊洲ガーデンフロント)
Email: pcman.info@toshiba-tie.co.jp

<写真提供> ■K.KURAMOTO

大きな動物(馬)を自分で操れることに感動しました

馬のいる生活は当たり前でしたが、馬を自分で初めて動かした時は興奮した。

おとなしい子どもだった小学生時代

— 武さんの輝かしい戦歴についてのお話はよく耳にしますが、少年時代についてはあまり語られていませんね。今日はそのあたりのお話も伺いたいと思います(笑)。

いや、そう言われても語るべきことがない(笑)、目立たないおとなしい子どもでした。男ばかり4人兄弟の3番目で、上3人が年子。学校では誰々の弟と形容されることの方が多かったですね。兄貴たちは勉強も運動もでき、成績優秀。わたしはといえば、体育の成績はよかったですけれど、それも兄貴たちに比べれば勝てないし、ほかの勉強は「中の中」でまさに普通(笑)。

— 小・中学校時代、何か思い出に残る出来事がありましたか。

印象に残っていることといえば、勉強というのが本当にきらいだったことかな。特に目立つ方でもなく、悪いこともしなかったけれど、宿題はほとんどしていかなかった。でも、学校は大好きでした。友だちに会えるし、休み時間には野球もできる。いま思うと、遊び以外はやる気のない小学生だったという

ことですね(笑)。いまでは、人一倍研究熱心だとかいわれていますが、当時は遊びたいばかりでしたから、何で机に向かつて勉強しなきゃいけないのかわからなかった。いま思えば、ちゃんとやっておけばよかったと思います。

馬に乗るおもしろさを知ったスポーツ少年団への入団

— 騎手になろうと思われたのは、いつごろですか？

意識したのは、小学校5年生のときにスポーツ少年団に入り、乗馬を始めるところですね。父が騎手で、JRAの栗東トレーニングセンター内にある厩舎に住んでいましたので、もともと馬がいる生活は当たり前で、馬にまたがったことも何度もありました。でも、実際に馬を自分で動かすというのは、それまでと全く違い、興奮しましたね。

あれだけ大きな動物を自分で操れる。言うことを聞いてくれたりする。それにすごく感動したことを覚えてます。以来、本当に夢中になってやっています。スポーツ少年団の活動があつて馬に乗れる土日はもちろん、平日にも行つて作業を手伝つたりしていましたから。騎手になることは、その延長線上の



自然な流れでした。わたしは中学生になつても身体が小さかつたし、厩舎に住み、騎手の息子という環境だったので、まわりも騎手になるだろうと自然に思っていたようです。だから、中学校卒業後の進路は競馬学校を受けようと、それしか考えていなかったですね。

— 競馬学校時代は、どのような気持ちで過ごされたのですか。

3年間の競馬学校ではひとりの教官がずっと担当してくれるのですが、その先生に入学早々言われたひとことが心に響いて、3年間をきちんとやっていたと思うのです。「お前ら、どうせ騎手になるんだから、ちゃんとやれ」と。つまり、やるからにはいいかげんことをするな、めいっばいやれということ。「確かにそうだな」と素直に思いました。

— 出演されたある番組で「小さなことをきつちりやることを常に心がけている」と言われていましたが、その思いの原点が競馬学校にあったのですか。

まさしくそうですね。わたしはそれほど熱いタイプじゃないと自分でも思いますが、騎手だから、騎手としてやるべきことは何でも全力できちんとやろうと思つています。競馬というのは個人競技だから、「まあ、いつか」と自分の中で手を抜こうと思えばいくらでも抜ける。ただ、必ず結果が出るかどうかはわからなくとも、自分の中で「ちゃんとやっておけば安心する」というのはあります。誰にでもなれる」というわけではない騎手になれたのだから、という思いもあるし、もつと言えば、いちばん好きなことだから、ちゃんとやるのが楽しいのです。

楽しいし、難しいから挑み続けられる

— どんなことでも「好き」というのは大きな原動力になりますね。ただ、やはり好きなだけでは通算勝利記録3300勝という前人未達の領域には届かないと思います。もちろん技術的にいろいろあるのですが、精神面で武さんを常に次へと挑ませていくのは何なのでしょう。

どうしたらもっとうまくやれるのかを考え続けているから飽きないのです

馬が「自ら走りたい」と思う騎乗がしたい。それが、シンプルにいい騎手だと思うから。

個性を生かすことが最大のポイント

— 騎乗していて、馬の気持ちを判断するサインのようなものはあるのでしょうか。

馬の上からというのは、ちようど首があつて耳が見えます。馬というのは実は耳がとてもよく動いて、耳に表情

「楽しい」「難しい」からということ

かな。デビュー以来、わたしの心にずっとあるのは「いい騎手になりたい」という思いです。シンプルに、馬に乗るからにはうまくなりたいたい。具体的に言うと、競馬の主役はあくまでも「馬」。ただ馬はレースの距離やペースなどをわかつていないから、騎手がそれをコントロールして勝利に導く。コントロールするうえでわたしがいちばん大事にしているのは、「馬を気持ちよく走らせる」ということです。いやいや走らされるのは違って、自ら走りたいと思う馬はやはり強い。そう馬が思える騎乗ができることが、わたしは「いい騎手」だと思つています。ただ馬はしゃべってくれないから、本当のところはわからない。いつもこれでよかったのかなと思う。そして、どうしたらもっとうまくやれるかということ、ずっと考え続けている。だから、飽きないのです。

クラム 馬の耳に注目!

武豊さんが騎乗時、馬の気持ちを推しはかる手段として見ているという「馬の耳」。実は、馬は左右の耳をそれぞれ独立して、180度の弧を描くように動かすことができる。これは馬の耳に約10個もの筋肉があるからで、馬はこの筋肉を使って感情を耳で表現し、馬同士でのコミュニケーションを行っているといわれています。

絶えず耳を動かし始める

馬が不安や警戒心を持っているとき。



両耳を後ろに伏せる

馬が威嚇や攻撃の感情を持っているとき。



両耳をビタリと同じ方向に向ける

周囲に何か注目するものがあるときで、馬の好奇心が表れている。



が出るのです。ですから、いま、どうい
ことを考えているのだろうかということ
は耳を見て判断しますね。

—馬にも人間と同じように個性がある
と思います。馬を気持ちよく走らせる
というのは、やはり性格や気性を生かして
乗るということでしょうか。

もちろんそうです。わたしたち騎手
は、その馬の性格をつかんで勝てるよう
にしていくな。これが大きいのです。例えば
「ディープインパクト」。競馬ファンなら知
らない人はいない名馬ですが、ものすご
く気性がきつく乗りこなすことが難し
かった馬です。わたしはいつもスタートを
おさえて、みんなから離れた後方に着け
ます。ペースが上がる3コーナー過ぎで
馬群の外に出て加速し、最後の直線で一
気に抜いていくというレースをしました
た。大胆に遅らせるわけですから、リス
クが高く、負けたときには当然大きく
批判される乗り方です。でもディープイ
ンパクトの性格や走り方から自分の考
えを信じ、「最後に思いっきり好きなだ
け走らせてやる。そのために前回のエネ
ルギーが十分残る乗り方をするから、最
初は少し我慢しろ」という感じのコミュニ
ケーションをとってレースをしました。

大人でも子どもでも 難しいことがクリアできたら、楽しい

「与えられたことをやる」にも楽しさがあることを
わからせてあげてほしい。



安田記念を制覇(2009年6月東京競馬場)
<写真提供> ■K.KURAMOTO

—武さんにとっては「楽しくて難しい
勝」の積み重ねが3300勝なのですね。
そういうことでしょうか。わたしは、
新人騎手時代、武田先生という素晴ら
しい師匠に恵まれたのですが、いつもは
ニコニコしているのに、ある日、突然、無茶
なことを言うのです。先生が指示され
たことをやるには、時間的に絶対無
理。それでも同期に頼み手伝ってもらっ
て取り組んだのですが、やはり結果的

いから(笑)。誰々より勝ちたいとい
とも思わないですね。もちろん勝ちたい
というレースはありますが、先の何勝よ
りも1勝1勝というか、とにかく毎週
末、レースに出ることが楽しみです。

騎手を嫌な存在だと思わせない。 何事も初めが肝心

やんちゃな馬も、デビュー戦ではシュンとなる。
それは初めてのことをクリアする経験だから、いい。

—騎手としてたくさんの馬に乗ってこ
られたと思いますが、印象深い馬やレース
はありましたか？

ありますよ。レース中、Uターンして
しまった馬や、レースが始まっているのに
ゲートから出ない馬もありました
(笑)。1勝するのはホント大変です。で
もその1勝がうれしい。勝つうれしさは
レースの大小には関係ありませんね。
もちろん賞金は違いますが(笑)。

—なるほど(笑)。ところで、馬のデ
ビュー戦での騎乗にはどのような思いで
臨まれていますか？

デビュー戦に乗ると、どんな馬でも、
将来デビューに出られるようになればい
いなと思ってしまう(笑)ですが、その
ためにわたしがいつも心していること
は、レース自体を嫌なものにさせない
ということ。何事も初めが肝心です
から。だいたいデビュー戦を終えた直後
の馬というのは、シュンとなる。調教とは
また違う世界にびつくりするのではし
うね。普段、やんちゃな馬もそうなる
かわいらしい(笑)。シュンとなるのはいい
です。それは初めてのことをクリアした経

にはきちんできなかつた。正直「どう
して先生はこんな無茶なことを言うの
かな」と思っていたのですが、後で「よく
やったな。そうやってやろうとすること
が大事なんだ」と言われたのです。つま
り、わたしがやろうとするかどうかを
見ておられた。
「きちんとやる」というのは、やろう
とすることでもあるんだと思いまし
た。ましてやそれをクリアできたらもっ
とうれしい。それがわたしにとっての1
勝だと思ふのです。
それを子どもするときにもしておけ
よかつたなと思います(笑)。最初にも
言いましたが、子どもとき、「こん
なの勉強してもしょうがないだろう」
と思っていたのですが、それは「与えら

験ですから。ただ、騎手を嫌な存在だ
と思わせないこと。馬が競馬をさらに
なるかどうかはこれが大きいのです。

難しいことを

「クリアしていく」という喜び

—武さんのこれまでを振り返って、どのよ
うな歩みだったとご自身で思われますか？

恵まれていたと思います。まさか、騎
手になった時に3000勝以上する
は思ってもいないし、海外で勝つことも
思い描いていませんでしたから。

—目標をはるかに超えていたと？

わたしは、あまり目標は立てないで
すね。もつといいことがあるかもしれな
れた課題をやるかどうか」ということ
だったんだなと思います。知識を得
ることはもちろんだけど、それを解いて
やろう、クリアしてやろうということが
大事だと、大人になってわかりました。
難しいことがクリアできた瞬間って、
大人でも子どもでもすごく楽しいで
しょう？学校のシステムって、武田先生
のような無茶さ(笑)はないし、一つひと
つきちゃんと段階を考えられたものでは
あるから、やればクリアしていける。遊
びたい盛りの子どもですから、わたし
が嫌だったように宿題も嫌でしょう。で
もそんな子どもたちに、それぞれの先
生なりのやり方で、それを「やる」こと
の大事さ、おもしろさをぜひわからせ
てあげてほしいなと思います。

武豊(たけゆたか) プロフィール

騎手。史上初・史上最年少・史上最速などデビュー以来数々の輝かしい記録を打ち立て続け、世界の舞台でも活躍。

- 1969年 3月15日、京都府に生まれる
- 1979年 栗東トレーニングセンター・乗馬苑で乗馬を始める
- 1984年 JRAの競馬学校へ入学
- 1987年 騎手デビュー
- 1988年 スーパークリークに騎乗して菊花賞を制し、JRA1初勝利
- 1989年 アメリカ・アーリントン競馬場で海外初勝利
- 1990年 オグリキャップに騎乗し有馬記念を制覇
- 1994年 JRAの日本人騎手初の海外G1ジョッキーとなる
- 1995年 史上最速・最年少(26歳4カ月)で通算1,000勝達成
- 2002年 通算2,000勝達成
- 2005年 ディープインパクトとのコンビで皐月賞、日本ダービー、菊花賞を制する
- 2007年 11月、通算3,000勝達成
- 2008年 世界トップジョッキーにより行われるチーム対抗戦「シャーガーカップ」にキャプテンとして出場し、好成績を収める
- 2009年 12月、通算3,300勝達成
- 2010年 3月、通算3,333勝達成



JRA通算3,333勝達成の記念Tシャツ



夏の恒例海外遠征にて
(2008年フランスのドーヴィル競馬場)